

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

### 1. 対象（実施を想定する学校・児童生徒の実態の概要）

- 中学部縫製班 1年生2人、2年生1人、3年生1人
- 2, 3年生は昨年度も作業学習に取り組んでおり、作業に見通しをもって取り組むことができている。1年生は4月から作業学習に取り組んでおり、作業学習プレと作業Ⅰ期で作業学習に慣れ、Ⅱ期では手順表を見ながら作業を進めたり、先輩に製品の確認を依頼したりすることができるようになった。
- 作業学習プレでなぜ作業学習をやるのかを学び、簡単な軽作業を行うなかで作業学習に向かう態度や身だしなみ、報告などの作業学習の基本について学習した。
- 作業学習Ⅰ期から各作業班に分かれての作業が始まり、縫製班ではミシンの使い方や刺しゅうのやり方、アイロンの扱いなどを学部で使うもの（雑巾やネームタグ）を作りながら学習した。ミシンやアイロンの操作、刺しゅう針や道具の管理を自分で行うことができる。
- ミシンに印を付けることで一定の縫い幅で縫うことができる。
- 作業学習Ⅱ期では「学校のために作ろう！」というテーマで取り組み、相手に喜んでもらえるようにという気持ちを持って取り組む姿が見られた。
- 障害児入所施設に入るまでに複雑な経緯を経ている生徒たちで、全員に人との関りについて課題がある。自尊心が低く、失敗することに抵抗があったり、授業前にトラブルがあるとそれを引きずって気持ちが沈んでしまう生徒がいる。

### 2. 単元名 「地域の方に「お礼の品」を贈ろう！」（全23時間）

### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・ミシンやアイロンなどの道具を正しく安全に使って製品を作ることができる。
思考力, 判断力, 表現力等	・チェック表や話し合いで決めた評価の基準を見て自分の製品の良否を判断したり、友達の製品の良否を判断したりすることができる。
学びに向かう力, 人間性等	・任された仕事に責任をもって最後まで取り組むことができる。 ・相手の気持ちを考えて、建設的な改善点やアドバイスを伝えることができる。

#### 4. 授業展開【 単元 】

##### 解決したい課題や問い

- ・地域の方にお礼の品を贈ろう！（学校の代表として）
- ・お礼の気持ちが伝わる製品を作りたい！

##### 考えるための材料

- ・自分たちが作ってきた製品、過去の縫製班の製品。
- ・すずらんの会にいらっしゃる自治会のお年寄りの方の情報。
- ・チェック表 ・手順表

##### 想定される活動

- ・どんな物が喜んでもらえるか、また、どんな物を作ることができるか意見を出し合って考える。
- ・この人にはこんな色や柄が合いそうだと生徒同士で話し合っって製品のデザインを決めていく。
- ・生徒同士で製品の良否を判断してより良い製品を作る。

##### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・これでいいのかな？先生に確認しよう。
- ・縫い目がずれているな。直してもらおうように伝えよう。
- ・こう伝えたらアドバイス（建設的な伝え方）になるかな。（枠組みの中で心地よい関りを経験する）

##### 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・〇〇さんに喜んでもらえた！
- ・渡したときに笑顔だったね！
- ・バザーに来てくれるって言ってたよ！